

JR四国労組自動車支部ニュース

2020年9月10日（No.1）

発行責任者／大谷 清 編集責任者／幸 大

第37回定期大会開催！

JR四国労組自動車支部は、9月9日、香川県宇多津町「ホテルアネシス瀬戸大橋」において『自動車支部第37回定期大会』を開催した。

開催にあたっては、規模の縮小や社会的距離の確保など、新型コロナウイルス感染症対策を施したうえで、四国各地から代議員ら総勢約40名が出席した。

大会は河野書記次長の開会の挨拶で始まり、資格審査委員会、議事運営委員会の設置後、高知分会の長崎代議員を議長に選出し議事に入った。

冒頭、自動車支部を代表して挨拶に立った上田執行委員長は、この間の「安全・安心輸送」の取り組みに敬意を表するとともに、「新型コロナウイルス感染症の影響により、会社の経営環境は危機的状況となり、夏季賞与が不支給となった。今後も厳しい状況が続くことが想定されるが、この難局を組合員の団結力で乗り切るとともに、多くの課題の解決に向けて、明るく働きがいのある職場づくりを目指し、先頭に立って奮闘する」と決意を述べた。

来賓として挨拶に立った、ジェイアール四国バス・吉良代表取締役社長からは「会社を取り巻く経営環境は極めて厳しく、新型コロナウイルス感染症の影響がさらに長期化した場合に何の施策も行わなければ、現在の雇用規模が維持できなくなる」という主旨の重大な発言があった。

その後、JR連合自動車連絡会担当・中村部長の挨拶を受けた後、JR四国労組本部を代表して挨拶に立った大谷執行委員長は、自動車支部の今日までの取り組みに対して敬意を表するとともに、当面する諸課題についてしっかり議論し、意思統一を図るよう要請した。

議事では、執行部より経過報告、会計報告・監査報告、2020年度活動方針（案）、予算（案）の提起を受けたのち、7名の代議員から雇用問題、待命休職に関する処遇改善等の質疑を受け、執行部答弁の後、満場一致で全ての議案が承認された。

最後に、自動車支部が一致団結してこの難局を乗り切るよう、上田執行委員長の「団結ガンバロー」で閉会した。

以上